

生命農学学位プログラム

専門科目(生命機能化学領域)

| 科目番号    | 科目名         | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員  | 授業概要  | 備考   |
|---------|-------------|------|-----|--------|------|-----|----|---|---|--|
| OBNL001 | 生命機能化学講義I   | 6    | 1.0 | 1      | 通年   | 応談  |    | 臼井 健郎, 田中俊之, 繁森 英幸, 春原 由香里, 古川純, 吉田 滋樹, 山田 小須弥, 土生芳樹, 松山 茂, 南雲 陽子 | 生命機能化学領域に関する学術論文等を収集・講読させ、既存研究の内容を理解して専門知識を広め、研究動向を把握するように指導する。その上で、取り組む研究課題を設定させ、その課題を解決するための研究計画を立案させる。必要に応じて、研究計画の修正等を指導し、また研究課題を解決するための専門的な研究法や実験法、データのまとめ方や解析法を教授する。 | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |
| OBNL002 | 生命機能化学講義II  | 6    | 1.0 | 2      | 通年   | 応談  |    | 臼井 健郎, 田中俊之, 繁森 英幸, 春原 由香里, 古川純, 吉田 滋樹, 山田 小須弥, 土生芳樹, 松山 茂, 南雲 陽子 | 生命機能化学領域における研究課題について、立案した計画に沿って研究を遂行するように指導する。得られた実験データ等を解析させ、論理的に考察させることで、課題設定時に立てた仮説が正しいかを検証させ、必要に応じて、仮説や研究計画の修正等を指導する。また、得られた研究成果を国際学会等で発表させ、英語力やプレゼンテーション能力を身に付けさせる。  | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |
| OBNL003 | 生命機能化学講義III | 6    | 1.0 | 3      | 通年   | 応談  |    | 臼井 健郎, 田中俊之, 繁森 英幸, 春原 由香里, 古川純, 吉田 滋樹, 山田 小須弥, 土生芳樹, 松山 茂, 南雲 陽子 | 生命機能化学領域における研究課題について、自ら考えて研究を進めるように指導する。得られた研究成果を、英語の学術論文としてまとめさせ、体系的な思考力、科学的・論理的な考察力、英語力やプレゼンテーション能力を深化させる。必要に応じて、論文の修正やレフェリーのコメントへの対応について指導し、国際学術誌に公表させる。               | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |

専門科目(動物生命科学領域)

| 科目番号    | 科目名         | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員   | 授業概要  | 備考   |
|---------|-------------|------|-----|--------|------|-----|----|--|---|--|
| OBNL011 | 動物生命科学講義I   | 6    | 1.0 | 1      | 通年   | 応談  |    | 谷本 啓司, 深水昭吉, 小倉 淳郎, 柏原 真一, 木村圭志, 井上 貴美子, 戸井 基道, 石田 純治, 加香 孝一郎, 大徳 浩照, 兼森 芳紀, 松崎 仁美 | 動物生命科学領域に関する学術論文等を収集・講読させ、既存研究の内容を理解して専門知識を広め、研究動向を把握するように指導する。その上で、取り組む研究課題を設定させ、その課題を解決するための研究計画を立案させる。必要に応じて、研究計画の修正等を指導し、また研究課題を解決するための専門的な研究法や実験法、データのまとめ方や解析法を教授する。 | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |
| OBNL012 | 動物生命科学講義II  | 6    | 1.0 | 2      | 通年   | 応談  |    | 谷本 啓司, 深水昭吉, 小倉 淳郎, 柏原 真一, 木村圭志, 井上 貴美子, 戸井 基道, 石田 純治, 加香 孝一郎, 大徳 浩照, 兼森 芳紀, 松崎 仁美 | 動物生命科学領域における研究課題について、立案した計画に沿って研究を遂行するように指導する。得られた実験データ等を解析させ、論理的に考察させることで、課題設定時に立てた仮説が正しいかを検証させ、必要に応じて、仮説や研究計画の修正等を指導する。また、得られた研究成果を国際学会等で発表させ、英語力やプレゼンテーション能力を身に付けさせる。  | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |
| OBNL013 | 動物生命科学講義III | 6    | 1.0 | 3      | 通年   | 応談  |    | 谷本 啓司, 深水昭吉, 小倉 淳郎, 柏原 真一, 木村圭志, 井上 貴美子, 戸井 基道, 石田 純治, 加香 孝一郎, 大徳 浩照, 兼森 芳紀, 松崎 仁美 | 動物生命科学領域における研究課題について、自ら考えて研究を進めるように指導する。得られた研究成果を、英語の学術論文としてまとめさせ、体系的な思考力、科学的・論理的な考察力、英語力やプレゼンテーション能力を深化させる。必要に応じて、論文の修正やレフェリーのコメントへの対応について指導し、国際学術誌に公表させる。               | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |

専門科目(応用微生物学領域)

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|------|-----|------|-----|--------|------|-----|----|------|------|----|
|------|-----|------|-----|--------|------|-----|----|------|------|----|

|         |             |   |     |   |    |    |  |   |  |
|---------|-------------|---|-----|---|----|----|--|---|--|
| OBNL021 | 応用微生物学講義I   | 6 | 1.0 | 1 | 通年 | 応談 | 高谷 直樹, 小林 達彦, 中村 顕, 野村 暢彦, 中島(神戸) 敏明, 深津 武馬, 玉木 秀幸, 應 蓓文, Utada Shinichi, Andrew, 竹下 典男, 萩原 大祐, 橋本 義輝, 豊福 雅典, 大津 厳生, 浦山 俊一, 熊野 匠人, 榎尾 俊介, 八幡 稜, 土肥 裕希, 河野 祐介 | 応用微生物学領域に関する学術論文等を収集・講読させ、既存研究の内容を理解して専門知識を広め、研究動向を把握するように指導する。その上で、取り組む研究課題を設定させ、その課題を解決するための研究計画を立案させる。必要に応じて、研究計画の修正等を指導し、また研究課題を解決するための専門的な研究法や実験法、データのまとめ方や解析法を教授する。 | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |
| OBNL022 | 応用微生物学講義II  | 6 | 1.0 | 2 | 通年 | 応談 | 高谷 直樹, 小林 達彦, 中村 顕, 野村 暢彦, 中島(神戸) 敏明, 深津 武馬, 玉木 秀幸, 應 蓓文, Utada Shinichi, Andrew, 竹下 典男, 萩原 大祐, 橋本 義輝, 豊福 雅典, 大津 厳生, 浦山 俊一, 熊野 匠人, 榎尾 俊介, 八幡 稜, 土肥 裕希, 河野 祐介 | 応用微生物学領域における研究課題について、立案した計画に沿って研究を遂行するように指導する。得られた実験データ等を解析させ、論理的に考察させることで、課題設定時に立てた仮説が正しいかを検証させ、必要に応じて、仮説や研究計画の修正等を指導する。また、得られた研究成果を国際学会等で発表させ、英語力やプレゼンテーション能力を身に付けさせる。  | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |
| OBNL023 | 応用微生物学講義III | 6 | 1.0 | 3 | 通年 | 応談 | 高谷 直樹, 小林 達彦, 中村 顕, 野村 暢彦, 中島(神戸) 敏明, 深津 武馬, 玉木 秀幸, 應 蓓文, Utada Shinichi, Andrew, 竹下 典男, 萩原 大祐, 橋本 義輝, 豊福 雅典, 大津 厳生, 浦山 俊一, 熊野 匠人, 榎尾 俊介, 八幡 稜, 土肥 裕希, 河野 祐介 | 応用微生物学領域における研究課題について、自ら考えて研究を進めるように指導する。得られた研究成果を、英語の学術論文としてまとめさせ、体系的な思考力、科学的・論理的な考察力、英語力やプレゼンテーション能力を深化させる。必要に応じて、論文の修正やレフェリーのコメントへの対応について指導し、国際学術誌に公表させる。               | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |

専門科目 (生物化学工学領域)

| 科目番号    | 科目名         | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時限 | 教室 | 担当教員   | 授業概要  | 備考   |
|---------|-------------|------|-----|--------|------|-----|----|--|---|--|
| OBNL031 | 生物化学工学講義I   | 6    | 1.0 | 1      | 通年   | 応談  |    | 市川 創作, 青柳 秀紀, 野村 名可男, 平川 秀彦, 小堀 俊郎, 横谷 香織, 小川 和義 | 生物化学工学領域に関する学術論文等を収集・講読させ、既存研究の内容を理解して専門知識を広め、研究動向を把握するように指導する。その上で、取り組む研究課題を設定させ、その課題を解決するための研究計画を立案させる。必要に応じて、研究計画の修正等を指導し、また研究課題を解決するための専門的な研究法や実験法、データのまとめ方や解析法を教授する。 | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |
| OBNL032 | 生物化学工学講義II  | 6    | 1.0 | 2      | 通年   | 応談  |    | 市川 創作, 青柳 秀紀, 野村 名可男, 平川 秀彦, 小堀 俊郎, 横谷 香織, 小川 和義 | 生物化学工学領域における研究課題について、立案した計画に沿って研究を遂行するように指導する。得られた実験データ等を解析させ、論理的に考察させることで、課題設定時に立てた仮説が正しいかを検証させ、必要に応じて、仮説や研究計画の修正等を指導する。また、得られた研究成果を国際学会等で発表させ、英語力やプレゼンテーション能力を身に付けさせる。  | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |
| OBNL033 | 生物化学工学講義III | 6    | 1.0 | 3      | 通年   | 応談  |    | 市川 創作, 青柳 秀紀, 野村 名可男, 平川 秀彦, 小堀 俊郎, 横谷 香織, 小川 和義 | 生物化学工学領域における研究課題について、自ら考えて研究を進めるように指導する。得られた研究成果を、英語の学術論文としてまとめさせ、体系的な思考力、科学的・論理的な考察力、英語力やプレゼンテーション能力を深化させる。必要に応じて、論文の修正やレフェリーのコメントへの対応について指導し、国際学術誌に公表させる。               | 14条対応。その他の実施形態<br>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する |

| 科目番号    | 科目名    | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員   | 授業概要   | 備考  |
|---------|--------|------|-----|--------|------|-----|----|--|--|---|
| OBNL041 | 生命農学演習 | 2    | 1.0 | 2      | 通年   | 応談  |    | <p>谷本 啓司, 青柳 秀紀, 市川 創作, 臼井 健郎, 小林 達彦, 高谷 直樹, 田中 俊之, 中村 顕, 野村 暢彦, 深水 昭吉, 繁森 英幸, 中島(神戸) 敏明, 野村 名可男, 小倉 淳郎, 土生 芳樹, 深津 武馬, 玉木 秀幸, 應 蓓文, Utada Shinichi, Andrew, 柏原 真一, 木村 圭志, 春原 由香里, 竹下 典男, 萩原 大祐, 橋本 義輝, 古川 純, 吉田 滋樹, 豊福 雅典, 大津 巖生, 平川 秀彦, 山田 小須弥, 井上 貴美子, 小堀 俊郎, 戸井 基道, 石田 純治, 岡林 浩嗣, 加香 孝一郎, 大徳 浩照, 松山 茂, 横谷 香織, 浦山 俊一, 小川 和義, 兼森 芳紀, 熊野 匠人, 南雲 陽子, 榎尾 俊介, 松崎 仁美, 八幡 穰, 土肥 裕希, 河野 祐介</p> | <p>各自が取り組む研究課題やその専門領域に留まらず、より広い生命農学領域における社会的ニーズを理解させる。また具体的な現実の課題に対し、生命科学の視点から解決に導くための方策等を提案させ、広い視野で世界の持続的発展に貢献できる能力を養成する。</p> <p>原則として、ゼミ形式で行い、全教員が担当するが、必要に応じて、招聘した国際的に活躍する国内外の第一線の研究者が担当する。</p> | <p>概ね対面だが、ディスカッション等は、必要に応じてオンラインで実施する</p> |